

2023 年度第 1 回産業医部会幹事会議事録

日時：2023 年 4 月 16 日（日）14：30～17：30

場所：Web 会議（ZOOM）

（敬称略）

出席：宮本俊明、小田原努、森口次郎、羽賀將衛、原俊之、各務竹康、菅原保、大橋力、加藤憲忠、谷山佳津子、福本正勝、塚原照臣、西澤依小、石川浩二、遠田和彦、岩根幹能、深井恭佑、塩田直樹、真鍋憲幸、斎藤恵、杉原由紀、黒崎靖嘉

（監事）深澤健二

（オブザーバー）大神明専門医制度担当理事

欠席：池上和範、西賢一郎

会に先立ち、部会長選挙の開票が行われ、宮本俊明氏が選任された。

また、小田原氏、森口氏が副部会長へ指名され、石川氏が総務担当、加藤氏が経理担当に指名され、それぞれ承認された。

1. 審議事項

①前回幹事会議事録の確認（資料 1）

石川幹事より議事録の確認があり、修正事項があれば 1 週間以内に連絡し、それを受けて確定とし、ホームページへ掲載することとなった。

②第 96 回学会の産業医部会長賞について（資料 2）

宮本部会長より、西澤幹事を選考委員長に任命し、13 名の幹事が選考委員として今後部会長賞を選考していく方針と報告があった。

③会計報告・会計監査報告について（資料 3）

加藤幹事より、2022 年度は単年度で約 58 万円の赤字となったと報告があった。これは必要以上の内部留保は望ましくない（内部留保額の適正額の上限は 1 年分の経費相当）、という学会方針から、元々約 61 万円の赤字予算であったため、予定どおりであったと補足された。今回は前年度と比べ、P コースが Web 開催のみであった前回から、会場費が新たに発生し、live 配信も行ったことが影響して赤字となったと説明があった。また、深澤監事より、監査の結果、問題ないことを確認したと報告があった。

宮本部会長より、今後も同様の予算となるか確認があり、加藤幹事より、2023 年度も同様の予算としていると回答があった。

④第 96 回学会の産業医部会企画における謝金の取扱いについて（資料）宮本

宮本部会長より、第 96 回学会では、公募企画、部会企画については各団体で謝金・交通

費を負担するよう、事務局から依頼されたと報告があった。福本幹事より、今回の産業医フォーラムについては、非学会員 1 名分のみ謝金が発生すること、深澤監事から、地方部会で企画して謝金も捻出するのは負担となるとの意見があった。宮本部会長、森口副部会長より本件は部会本部で負担するのが望ましいという意見になり、その方向で今後進めることとなった。塚原幹事より、第 33 回全国協議会でも適用希望があった。本件は執行部で是非を検討してもらうこととし森口副部会長に委ねた。

⑤医部会報について（編集委員会）（資料 4）

原幹事より、第 77 号が原幹事の担当で、近日中に 2000 部へ増冊して発行予定であること、第 78 号は真鍋幹事が主担当で編集作業中であると報告があった。化学物質の自主管理シリーズが進行中であり、第 78 号 Q&A を掲載予定で準備中であると報告があった。また各地方会部会報担当幹事の確認、地方会行事案内についても協力依頼があった。（参考：3/27 時点 部会員数 1785 名）

真鍋幹事より、上記化学物質の Q&A について進捗状況の報告があった。また、部会員の名簿の取扱いについて、「名簿管理規約案」を資料として提示し、年 1 回、部会長が入手し、総務担当幹事が各地方会主担当幹事へパスワードを発行してダウンロードする形とすることを提案された。宮本部会長より、年 1 回であるが、臨時も可能であるよう「原則年 1 回」としたと補足があった。森口副部会長より、学会本部の規程について、研究用の提供も意識し、廃棄の項目も設けるなど工夫して作成したことが補足された。

⑥2023 年度プロフェッショナルコースについて

加藤幹事より、3/17 に第 1 回実行委員会を開催し、実行委員長は東北大の色川先生に決定し、開催形式は現地開催プラスオンラインのハイブリッド開催予定であること、また 4/24 に第 2 回実行委員会を開催し、日程、テーマ、講師など詳細を検討予定であると報告があった。

⑦専門医制度について

大神明専門医制度担当理事より、5 月の学会時に選考医試験が、専門医試験は 8 月 19、20 日に大阪にて現地開催予定であると報告があった。また指導医の紹介への対応について、オンラインでの指導も併用しながらの対応も含めて、部会幹事各位に協力要請があった。また、労働衛生コンサルタント保健衛生の資格が専攻医試験の受験資格に追加されたこと、指導医更新時に、学会参加の必要条件が厳しくなったことが報告された。

⑧ポスター発表優秀賞選考と表彰方法について（資料 5）

西澤幹事より、今回から委員長を引きついでと挨拶があった。また今年度の協議会では、現地ポスター発表のみとなる予定で、選考方法の変更についての提案があった。大橋幹事から、近年演題数の増加や二重投稿の確認が必要となったことなどから、現地での作業を最小限にする方針とすることが提案された。具体的には、抄録からの事前審査で数を絞ることと補足があったが、変更方針に特に異論は出なかった。また塚原幹事より、表彰式は従来の懇親会ではなく最終日の閉会式の際に行う方針であると説明があった。石川幹

事より、新審査員の確認があり、宮本部会長より、今後早急に分担表を作成して任命すると説明があった。

⑨学会 100 周年記念事業に向けた対応について（4/9 委員会の報告より）

宮本部会長より 100 周年記念事業について、記念イベントは第 100 回大会（九州地方会が担当）ではなく、2029 年の大会時に開催方と報告があった。資料収集については、過去には 70 周年の記念誌があり、それ以後の 30 年分を集める方向性であると補足された。

また、100 年事業の 1 つである産業衛生専門職の倫理綱領の見直しについて、西澤幹事より進捗報告があった。原則論を基盤として作成し、各部会にも適応できる内容とすること、部会や部会以外からも意見を募る方向性であると説明があった。森口副部長より、具体的な内容まで示す指針でなく、骨格的な綱領を示し、部会員からも委員を募集すると補足があった。

⑩メルマガ記事作成に際して部会発信文の窓口等の決め事について

隔月、池上幹事が担当となって発信内容を募集して発信文を作成し、広報委員会へ提出することが確認された。

⑪四部会合同シンポジウムについて意見交換（4/9 四部会長会議の報告より）

宮本部会長から、急速な少子高齢化への対応のようなテーマを検討中であると報告があり、部会としての演者について今後立候補者を募ることとなった。

⑫ダイバーシティ推進委員会への報告結果について意見交換（資料）

宮本部会長より、部会行事、各地方会部会行事の演者、座長の調査結果について、女性比率が上昇傾向にあるが十分ではないと報告があり、今後もダイバーシティの観点を意識して人選するよう協力依頼があった。

⑬他部会の幹事人数調査の報告、医部会幹事人数について意見交換

宮本部会長より、他部会については理事長推薦が地方会推薦に比べて多い現状であると報告があり、今後産業医部会も、必要に応じて増員していくことが提案され、今後監事、会計、関東・近畿地方会などを増員方向で検討することとなった。

⑭次回幹事会の日程について

石川幹事より、第 96 回学会期間中の 5 月 12 日（金）12 時 20 分から 1 時間、現地開催（Web とのハイブリット開催で現地はお弁当付き）で開催予定と確認があった。

2. 報告事項

①第 96 回学会（宇都宮）の準備報告

福本監事より、来月の開催に向けて準備中で、4/13 にプログラムの詳細がホームページで公表されたと案内があった。

②第 96 回学会（宇都宮）医部会フォーラムについて

福本幹事より、5/11 の 15 時 30 分から「働き方改革における 2024 年問題への備え～運輸業・建設業を中心に産業医活動について考える～」をテーマに予定していると報告があ

った。

③第 96 回学会（宇都宮）医部会シンポジウムについて

宮本部会長より、「産業医の需要供給実態と偏りについて」というテーマで準備中であること、内容・各演者の説明があった。

④第 33 回全国協議会（甲府）の準備報告と自由集会について（資料）

塚原幹事より、2023 年 10 月 27 日から 29 日まで「多様化する社会と産業保健」をテーマに、甲府市の YCC 県民文化ホール、山梨県立図書館で、現地開催とオンデマンド開催で準備中であること、一部プログラムの紹介と報告があった。幹事会については、10 月 27 日の 14 時 30 分から 3 時間枠は確保している旨も補足があった。

⑤第 97 回学会（広島）の準備報告とフォーラムについて

真鍋幹事より、真鍋幹事が企画運営委員長、塩田幹事が実行委員長で、2024 年 5 月 22 日か 25 日に広島国先会議場、中国新聞本社ビルにて、「変革期における産業保健のアイデンティティ」というテーマで準備中であると報告があった。100 周年記念に向けての企画も検討中であると補足があった。

⑥第 34 回全国協議会の準備状況について

宮本部会長より、関東地方会が担当し宮本部会長が企画運営委員長、イオンの増田先生が実行委員長で、2024 年 10 月 3 日から 5 日に木更津のかずさアカデミアパークで「過去と未来の産業保健の架け橋に～昨日・今日・明日～」をテーマに、開催予定であることが報告された。100 周年へのキックオフ的位置づけで企画を検討予定であることが補足された。

⑦第 98 回学会（東北地方会）について

菅原幹事より、黒澤地方会長が企画運営委員長として、これから準備予定であると報告があった。

⑧各種委員会報告（生涯教育、政策法制度、学術、ダイバーシティ、広報）

生涯教育委員会について、宮本部会長より、ベスト GP 賞は該当なしで、GP 奨励賞が決定したこと、従来の素材をもとに選考していた方式から、完成形を表彰対象とすることに変更になったことが報告された。

政策法制度委員会について、森口副部長より、産業保健のあり方検討会について 5 月に開催予定であること、化学物質の自主管理について継続議論中であると報告があった。

学術委員会について、森口副部長より、産業疫学の共同研究をホームページで募集していること、若手研究者の会と連携して作成した基礎的な内容の動画を今後ホームページへ掲載予定であると報告があった。

ダイバーシティ推進委員会について、大橋幹事より、各地方会、部会へアンケート調査の協力へのお礼があった。また 96 回学会でフォーラムを開催予定であること、6 月にオンラインセミナーを開催予定であることと、各回のオンラインセミナーは「産衛だより」に内容掲載されていることの報告があった。

広報委員会について、黒崎幹事より、メルマガを隔月で発信中だが、今回5月に96回学会の案内にしぼった増刊号を発行予定であることが紹介された。

⑨各担当幹事報告

特になし

⑩理事会報告（資料9）

大橋幹事より、専門医制度委員会制度の規約変更があったこと、研究会改革について、研究会数の上限の廃止、実績重視とすること、継続審査を厳格化することなどが報告された。また、今後学会としてさらにダイバーシティの推進をしていくこと、今後の学会関連予定の報告があった。2023年10月からのインボイス制度の開始に伴い、今後の学会、協議会の協力会社をインボイス登録業者に限定すること、また地方会、部会、委員会もそれに準じることを推奨することとなり、対応詳細検討中であるが、まずは既存の取引業者の登録状況確認が必要となることが報告された。

宮本部会長より、インボイス制度に関連し、某団体の活動内容に懸念事項があり、今後運営協力の選定の際に注意喚起があった。

⑪各地方会活動報告

各地方会から活動状況の予定、報告があった。

⑬その他

大神明専門医制度担当理事より、プライマリケア連合学会から産業医部会とコラボ企画の希望を受けたと報告があった。菅原幹事、福本監事から当該学会の補足説明があり、今後連携していく方向性の議論があり、検討していくこととなった。

以上